

VISTA 5 M2 ユーザーレポート

株式会社長崎国際テレビ 様

VISTA 5 M2 - 32



制作サブを VISTA 5 M2 で更新



株式会社長崎国際テレビ
技術局 技術部
石濱 浩司

更新サブの概要

弊社では、1991年4月の開局時に整備した制作サブを2012年12月に更新しました。このサブでは毎週土曜日11:35からの生放送「ひるじげドン」等で運用していましたが、2006年10月に報道サブを新設して以来、報道サブで全ての番組を運用してきました。但し、ニュース直後の3分間でシステム変更して「ひるじげドン」の放送をしたり、ネットへ報道素材送りをしながらリハーサルをしたりと制約もありました。一応こなせる事から、制作サブの更新はのびのびになっていましたが、デジタル関係の設備投資も落ち着いてきたので、更新の運びとなりました。弊社で初めての制作サブ音声卓更新です。



選定の理由

日頃の運用を考えると30フェーダー程度有れば問題無いとして、数社から提案やデモをして頂きました。その中でVISTA 5 M2を選定したのは、

- ①わかりやすさ、使いやすさがしっくり来た
高音質で多機能なのはもちろんですが、設定からミキシングまでの操作に大きな不安を感じませんでした。
- ②納入実績の多さ
納入した他局様に見学に行き、いろいろお話を聞く事が出来ました。自社に設置した時のイメージが沸き、とても参考になりました。
- ③信頼性
更新前の制作サブもSTUDERの963、録音室もOnAir 2500を採用しており、問題なく運用できていました。

システム設計に際して、「ひるじげドン」はスタジオとは別の1階階梯で制作していますが、スタジオ・1階それぞれに送るモニター回線設定の相談に乗って頂いたり、卓を置く台の製作に至っては、更新しないモニター棚に高さを合わせたり、映像卓との質感を合わせてもらったりと、いろいろな要望を聞いて頂きました。また、モニタースピーカーの選定に付いても、デモを取り寄せて頂

いた上、既存のモニター棚でも最良の音が鳴るように、取り付け角度の調整や、写真に示すような吸音材の貼り付けといったアコースティックな作業（この後きちんとネットを張りました）まで手伝って頂きました。「良い音声卓から出る音は気持ち良くミキシングして欲しい」とのチューダーさんの心意気がとても伝わってきました。

使用してみて

運用開始後、半年ちょっと過ぎましたが、前述の通り使用感はとても良く、数日トレーニングしただけで、同じ番組でもオペレーターそれぞれが好みの設定にして、ストレス無く使用しています。弊社にしてはちょっと贅沢！のメーターブリッジはグレードが1ランク上がった気分だけで無く、出入りする音が一目で判るのは生放送でもとても重宝しています。この音声卓の性能を遺憾なく発揮出来る様、スキルアップを目指します。

